

第9回 APRU マルチハザードリサーチシンポジウムに出席しました(2013/10/28-29)

テーマ：国際連携、APRU、マルチハザードプログラム

場所：国立台湾大学

APRU（環太平洋大学協会）の第9回マルチハザードリサーチシンポジウムが10月28-29日の2日間、国立台湾大学(台湾・台北市)で開催されました。災害科学国際研究所から多数の教員と学生が参加し、発表を行いました。当研究所教員の発表タイトルは以下の通りです。

江川新一（教授、災害医学研究部門）『日本における保健医療コーディネーターの設置』

村尾 修（教授、地域・都市再生研究部門）『日本の災害マネジメントと災害科学国際研究所の「ポスト兵庫行動枠組み」に向けての活動』

越村俊一（教授、災害リスク研究部門）『2011年東日本大震災後の津波復興計画の評価：仙台市の事例をもとに』

ブリッカー ジェレミー（准教授、災害リスク研究部門）『2011年東日本大震災：防災、対応、復興とその教訓』

呉 修一（助教、災害リスク研究部門）『2013年1月ジャカルタ洪水の主な原因』

金 進英（助教、人間・社会対応研究部門）『交通避難シミュレーション開発』

また、シンポジウムの締めくくりとして、APRU マルチハザードプログラム特別セッションが開かれ、APRU マルチハザードコアグループメンバーが発表しました。

真野 明（教授、災害リスク研究部門）『東日本大震災の経験をいかに共有するか』

小野裕一（教授、情報管理・社会連携部門）『APRU マルチハザードプログラムの役割と目的』

泉 貴子（特任准教授、情報管理・社会連携部門）『APRU マルチハザードプログラムの活動と今後の活動計画』

さらに、学生によるポスターセッションが行われ、東北大学所属の学生が3件のポスター発表を行い、広域災害把握研究分野所属のブルーノ・アドリアノさんが入賞しました。

シンポジウムの後には、災害科学国際研究所がハブ機能を務める APRU-IRIDeS マルチハザードプログラムの第2回コアグループ会合が開かれ、これまでの活動とその進捗状況を振り返るとともに、来年チリで開催される第10回シンポジウムへのできる限りの支援を約束しました。



全体写真



APRU マルチハザードプログラム特別セッション